

図1 ゼナライト社製漂流ブイ側面図（左）と自作ドローグ版部分側面図（右）

全質量：約2.5kg（本体のみ）

主要材質：アルミニウム合金

フロート：発砲ポリエチレン

灯光：筒形式 ZL-LS100H-Y-L 9 cd

光達距離：4.5km

他にほぼ同サイズの大鋸造船所製漂流ブイも使用した。



図2 ドローグを装着した漂流ブイ

左はスチロール板，右はベニヤ板製。試作品のため左右でサイズが異なっているが，実際には左の材質を用い，右のサイズのものを使用した。

（図1，2は，本文55ページ）
（図28は，本文86ページ）

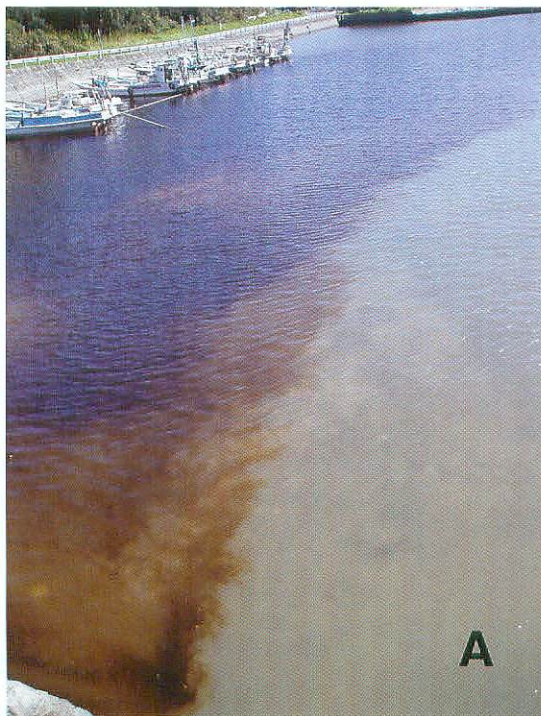


図28 赤潮の残骸を含むと思われる海水（A）とその顕微鏡写真（B）

2004年9月17日，大浦港にて

DATE/TIME (JST) 2002.07.29/10:14:39 LATITUDE N 32° 52.133
LONGITUDE E130° 12.355

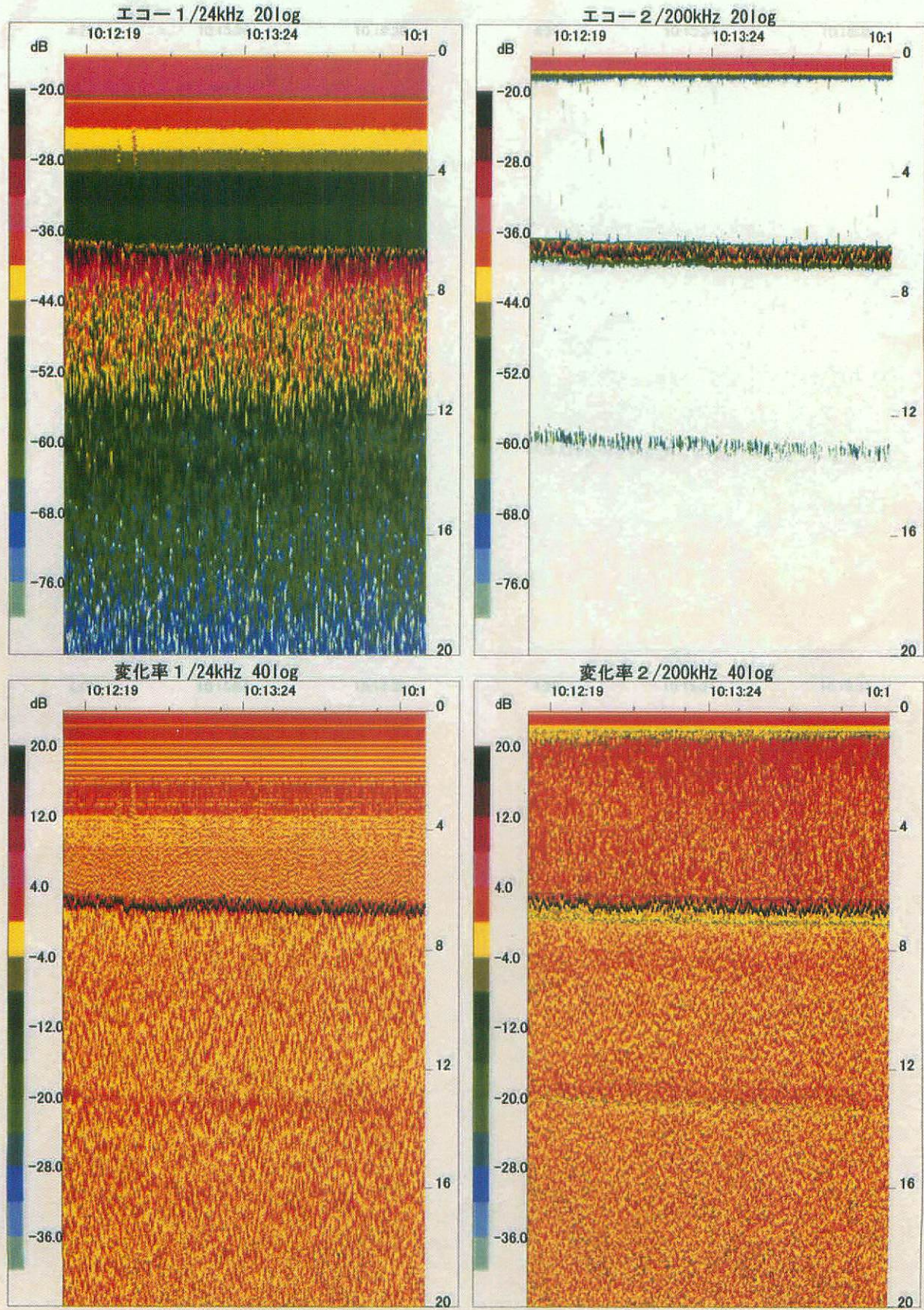


図5 浮泥層厚検出例 (24kHzと200kHz; 事例表示)

(図5は、本文94ページ)

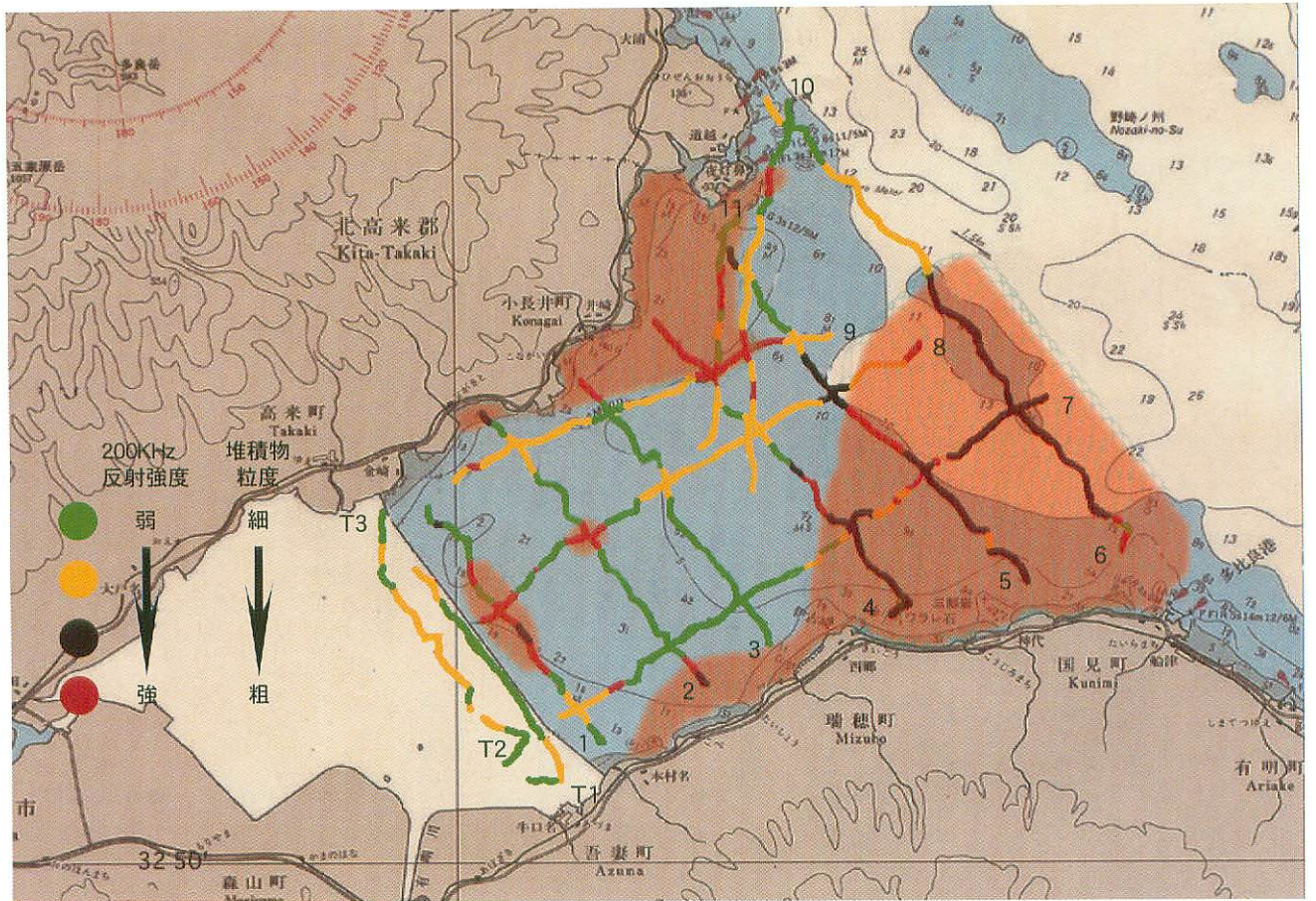
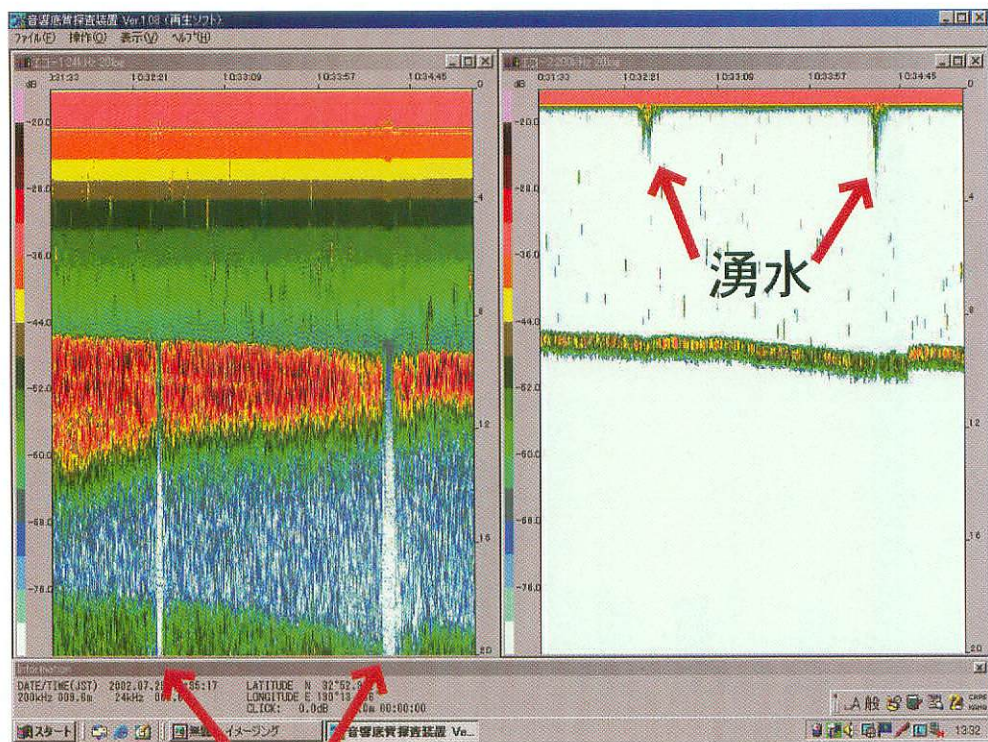


図8 各測線ごとの堆積物粒度組成 (太線カラー表示)



湧水

図9 地下水湧出海底地形と音探結果

(図8, 9は, 本文99ページ)

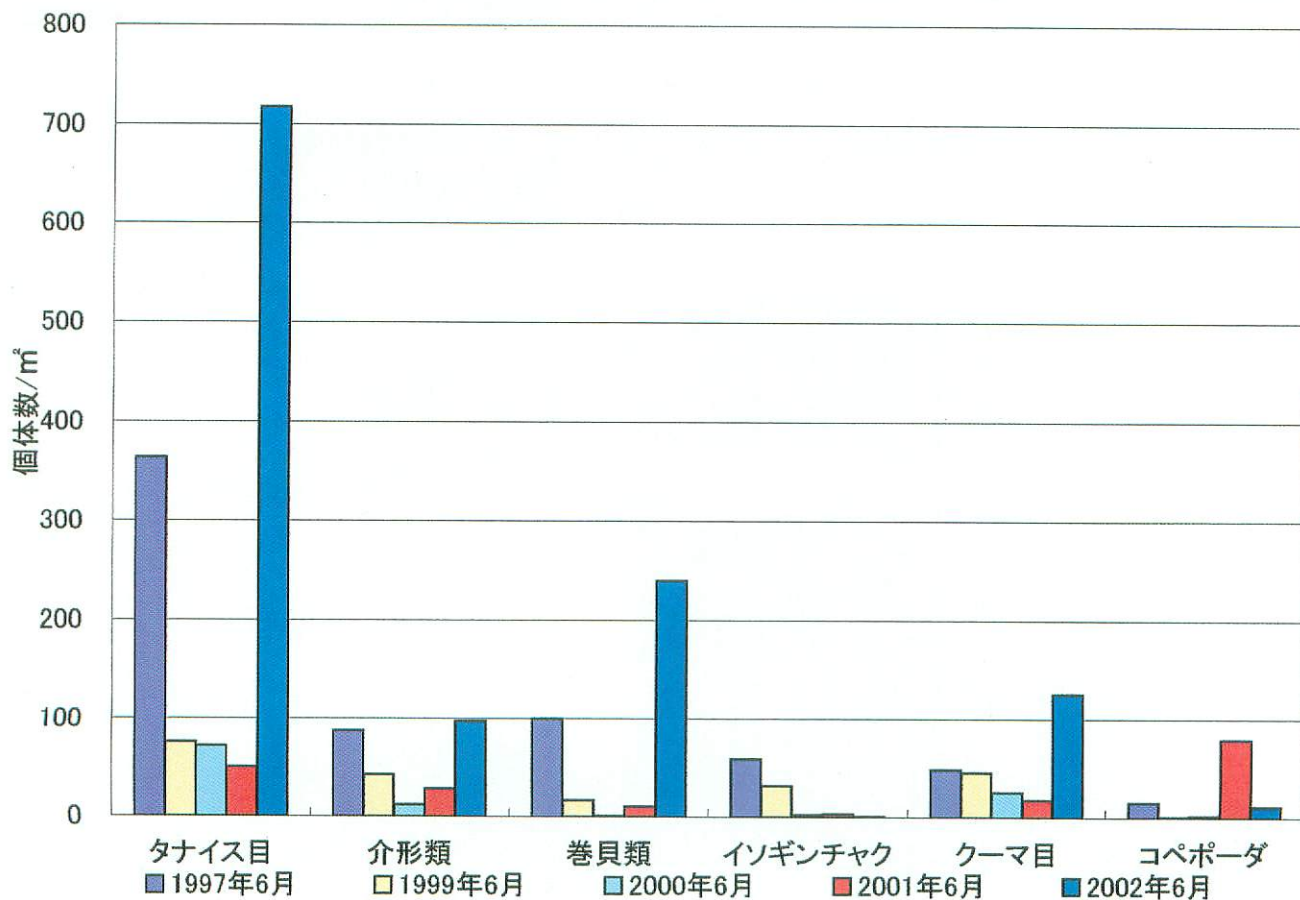
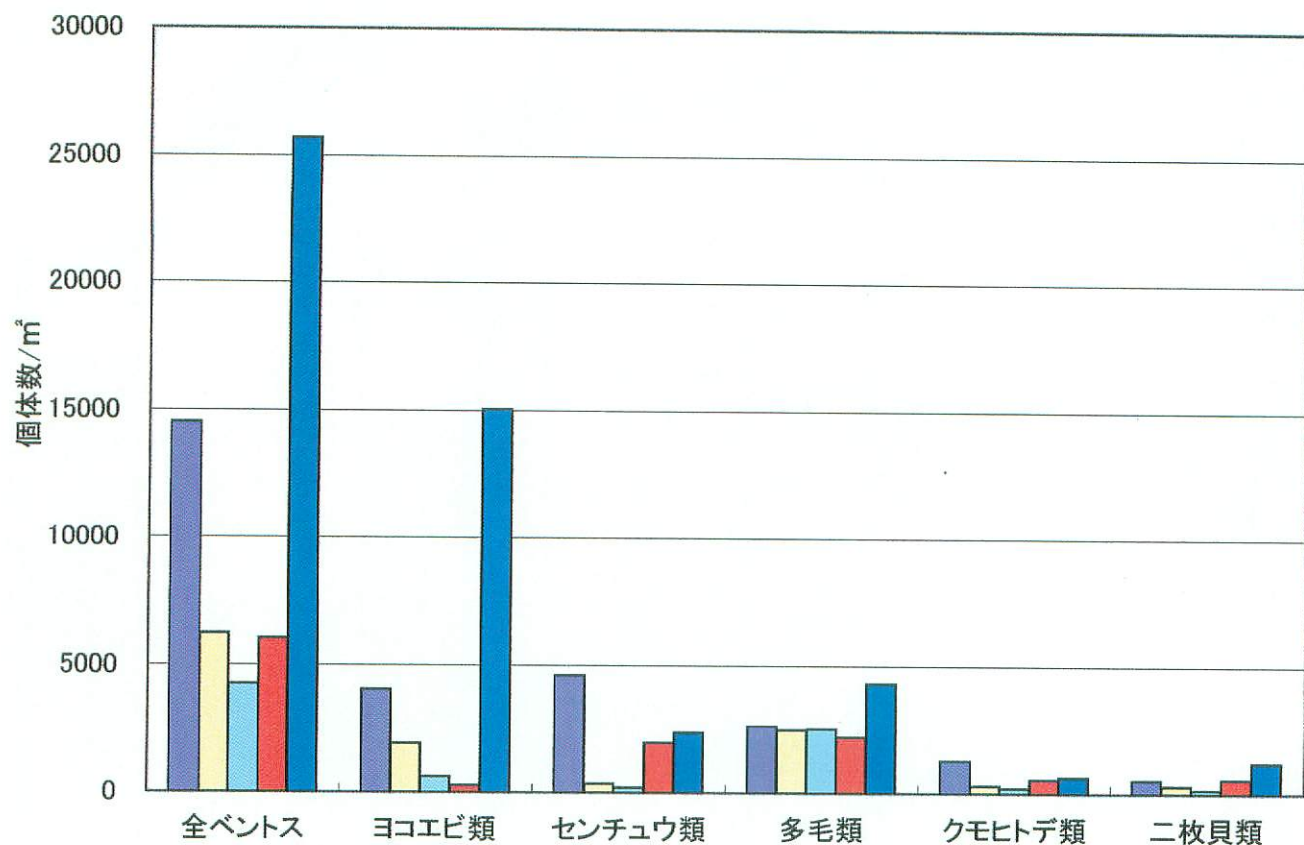


図10 1997年6月～2002年6月 諫早湾口～有明海奥部における平均個体数密度の比較

(図10は、本文141ページ)